全旅連青年部全国大会特集

「未来に向けて歩き続けよう」

全国大会開催記念対談

「旅館甲子園」に期待を

"魅力的な事業"を構築

全旅連青年部部長
横山　公大氏

全旅連青年部次期部長
山口　敦史氏

全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会（全旅連）青年部は9月27日、沖縄県の沖縄コンベンションセンターで第21回全国大会を開く。横山公大部長（高知県・土佐御苑）体制2年間の集大成とも言えるこの事業には、全国の青年部員約1千人の来場が見込まれている。大会開催を前に、横山部長と、7月18日の臨時総会・選挙で次期25、26年度青年部長に決定した山口敦史副部長（山形県・ほほえみの宿滝の湯）に、横山体制約1年半の回顧と次期山口体制の活動方針を語ってもらった。（東京の全国旅館会館で）

――山口次期部長から、「山口体制」2年間の方針を聞かせていただきたい。

山口　先の所信表明では、三本柱を挙げさせていただいた。

ひとつは組織力の強化。決して今が弱いということではないが、執行部が考えていることを、いかにスピーディーに各地域の青年部員に伝えるか。またその逆に、地域の人たちの感じる問題点を、いかに青年部全体の問題として取り上げるか。より、風通しのいい組織を構築する必要があるのではと、柱のひとつにさせていただいた。

また、青年部の交流サイト「yadomo」と「宿屋の知恵袋」を、さらにリストラクチャーして、活用していきたい。

ふたつ目は、魅力的な事業をたくさん作っていきたい。学観連（日本学生観光連盟）との交流は継続させていかねばならないし、始まったばかりの旅館甲子園は2回、3回と続けて、日本中、誰もが知っているような事業に育てていきたい。

観光庁との協働事業も行っていきたい。例えば統計事業。庁で観光のいろんな統計を取るが、リサーチ会社に任せても、回り回って結局我々のところに依頼が来る。青年部で請け負い、観光庁をはじめとした各省庁とのパイプを太くしていきたい。

事業のもうひとつは、異業種とのコラボレーション。スポーツやファッション、健康器具メーカーなど、様々な業種とタイアップし、相乗効果が得られる事業を行うことで業界のブランド力、認知度を高めていければと思う。そのことがきっかけで業界への就職希望者が多く出てきたり、業界全体のレベルアップが図れるようになればうれしい。

流通の部分では、我々独自のゲートウェイを構築したい。ネットエージェントの問題がいろいろあったが、我々は物申せる業界でなければならない。すぐにはできないかもしれないが、業界独自の入り口というか、そういうものが絶対必要ではないか。そうでなければいつまで経っても我々業界はなんとなく下にある、そんな状態から脱皮できないのではないか。

三本柱の最後は災害支援ネットワークの構築。東日本大震災では、我々の多くの仲間が被害にあった。青年部独自のネットワークを構築して、起こり得る災害への備えにしたい。

――「山口体制」のキャッチフレーズは。

山口　先の部長選挙の時に申し上げたのが「歩きつづけよう、強い絆で結ばれた仲間とともに。変わりつづけよう、明るい未来のために。」。絆で結ばれた仲間と一緒に、とにかく止まらずに、歩き続けることで業界が変わる、変わらなければ未来がない、というふうに思っているので、短めにまとめさせてもらった。

横山　永山部長の時の「YES WE CAN」は、アメリカのオバマ大統領に後で使われた。井上部長の時の「誇り、絆、友情」の「絆」は、震災が起きてからよく使われている。青年部長の時代の先を行く嗅覚はすごい。そういう意味では、山口さんのこの言葉も時代を先取っているのだろう。

――人事や委員会構想は。

山口　まだこれから。委員会は自分なりにまず頭で考えておいて、あとは副部長と話をして、その中で決めていくべきだろうと思う。

――横山部長が山口次期部長に期待することは。

横山　私は青年部長を目指した時、誰と仕事をしたいかをずっと考えていた。その中で、早い段階から思い描いていたのが山口さんだった。年下の私が言うのはおこがましいが、私より能力も影響力もあるし、勉強もされているので、次の部長を託すのに何の不安もない。

――全国大会に向けて、全国の青年部員にメッセージを。

横山　私が初めて全国大会に参加したのが今からおよそ10年前の神戸。その時、私が感じ取ったように、今回の大会でも絶対に気付きと学びがある。当時の青年部長の岡本さんが、「勇気を出していこう。踏み出してみよう。そこにはきっと何かがある」とおっしゃっていた。

沖縄は確かに遠くて、躊躇している人もいると思うが、絶対に来て損はないと思う。特に若い人たちにはぜひ、来ていただきたい。

山口　横山体制の集大成の場所。まだ、旅館甲子園があるが、まずはひとつの大きな区切りなので、来て、横山公大そのものを見ていただきたい。

横山　（笑）。

山口　全国の出向した仲間が、一所懸命2年間構築してきたものの集大成の場でもある。ご自身の目で見て、体感することによって、必ず何かを自分のものにし、それをぜひ地元にフィードバックしていただきたい。

――（司会＝本社・森田淳）「横山体制」のおよそ1年半を振り返ってほしい。

横山　体制が始まる前にまず思ったのは、組織の若返りを図りたいということだった。私は30代そこそこだが、戦国時代とか明治維新の頃は、20代や、それに満たない人たちが日本のために駆け回っていた。今の若い人たちがそういう情熱を持っていたら、この国や業界はもっと変わるのではないかと思った。

私たち旅館業界で、よく特消税（特別地方消費税）の話が出てくる。業界を変えた、歴史に残る出来事だったが、先人がやってきたことをいつまでも語り草として話しているだけでいいのか。もっと若いうちに「気付き」を持ってもらい、「僕らのやっていることはまだまだ小さいことなんだ」「もっとビジョンを持って、業界のために動かなければ」と思ってほしかった。

そのために今期の青年部では、委員長などにかなり若い人を登用している。副部長や理事の人数は、規約上のマックス、最大限だ。

体制が始まる前の人選は、本当にわくわくして、夜も眠れないほどだった。

体制が始まって最初の春、各地（都道府県青年部）の総会回りを行った。東北を中心に、特に被災地と言われるところは100％回ろうと思い、これは実現できた。

今期は11の委員会を組織して活動している。この中の「旅館アカデミー委員会」では、「旅館経営者に必要な基礎知識と心構えを学ぶ」をテーマに、経営にかかわる勉強会や視察会を行っている。

ちやほやされて、訳も分からないまま専務や常務になって、でも世間に出てみると何も知らない、という人も少なくないだろう。

全旅連青年部は自己研鑽の場だ。でも、行かせたくないという親御さんが結構多い。自分たちも若い頃、結構やんちゃをしてきたはずなのに（笑）。それを払拭するためにも、何か道場的なところを作りたかった。成果が表れており、これはこれからも継続したいと思う。

――昨年11月には被災地の福島県南相馬市で復興支援イベント（宿屋の若旦那大集合！全国うまいもん博覧会）を行った。

横山　約1500人の住民にお越しいただいた。全国各地の「うまいもん」を青年部のメンバーが屋台で振る舞い、舞台では郷土芸能などのアトラクションを行った。地元の皆さんの心に残っていただけたのではないかと思う。地元のJC（青年会議所）には、住民の皆さんに告知をする役目をしていただいて、本当にありがたかった。

山口　たまたま私が南相馬のJCと交流があり、お願いしたところ、全面的な協力をいただいた。

宮城県の南三陸町で「福興市」というイベントが行われて、今も続いている。被災地への支援も時間が経つと下火になるもので、私たちの活動もこれで終わりにせず、継続することが必要ではないか。

――今年9月に全国大会、来年2月に「旅館甲子園」が開かれる。「横山体制」はこれからも正念場と言える。

横山　全国大会は、現在（8月末）の登録者数が750人。最後の追い込みで、最終的には900人、1千人の登録を目指したい。

旅館甲子園は、メディアも注目してくれて、某テレビ局が深夜枠だが、ドキュメンタリー番組を作ろうと言っている。メディアだけでなく、いろんな企業が支援を表明している。

――「旅館甲子園」を改めて説明すると。

横山　普段、注目されることの少ない旅館の従業員にスポットを当てた企画だ。「国際ホテル・レストラン・ショー」の中で行う。中身については期待していただきたい。次年度以降もできれば継続させて、厳しい時代の中で、「あのイベントに乗っかれば一躍スポットを浴びる」というふうに、みんなに思っていただけるとありがたい。

この夏は自分の宿の現場にほとんどいたが、社員さんと一緒に汗をかくのは本当に楽しい。この旅館甲子園を、経営者と従業員のコミュニケーションツールとしても使ってもらえるとうれしい。

――国会議員への陳情活動も、今年は2回行った。

横山　私が不得意な政治の分野は、森さん（副部長）に助けていただいた。森さんとは部長選挙で戦った仲だが、大人の対応をしていただき、本当に感謝している。

2回の陳情は、特に若いメンバーにとっては刺激になったと思う。私も永山部長の時に、同じ体験をさせてもらい、すごく刺激になった。こういう体験は早いうちにしておくことが必要だと思う。

握手を交わす横山、山口両氏

全国の宿泊施設様と共に歩んで28年…さらなる発展のためにお手伝いできることが広がります！　お気軽にお問い合わせください ☎ 054-281-3931

宿泊施設の経営をトータル的にサポートします。
すけさんサポート
消費者ニーズ × 経営理念
管理システム あすなろ
改善のご提案
情報分析 財務分析
実行力
改善を実現するためのサポートをします
予約代行サポート
・予約サイトの販売代行
・管理システムの提供
自社サイト運用
・動画を使用したサイト制作
・効果的な運営提案
建築コンサルティング
・改装プランの提案
・信頼出来る建築会社の手配
融資サポート
・事業計画の作成
・返済計画と実行サポート
・金融機関との折衝
商材仕入れ
・全国食材の手配
・イベント企画の実行サポート

広がる！サポートの輪！
サービスコンサルティング
各種提案・手配
改装・リニューアル
アメニティー
イベント商品
食材 etc
システム開発
ネット販売一元管理「かくさん」
宿管理システム「あすなろ」
オフィシャル予約システム
メール配信システム
ガッツポーズ増加中！
経営コンサルティング
経営分析・改善提案・経営診断
財務会計処理サポート
融資コンサルティング
決算申告代行
事業計画作成
宿泊施設向け Liberty トータルサポート
営業支援
ネット客室販売代行
プラン登録・管理代行
宿泊商品用撮影
会員向け情報発信
WEBソリューション
オフィシャルサイト制作
サイト運用ツール提供
集客UP提案
動画撮影・編集
宿さがし.com
企画立案支援
イベント・キャンペーン企画
宿泊プラン立案
メール会員獲得企画
メルマガ情報立案
繋がる！パートナーの輪！
株式会社リバティー《本社》
〒422-8062
静岡県静岡市駿河区稲川3-2-23
TEL:054-281-3931
FAX:054-281-3897

一般のサイトコントローラではありません！
予約一元管理システム
かくさん
ネットもリアルも
予約管理の一元化をするシステムです。
同一管理でミス・労力をカット
予約係の混乱を防ぐ！
サイトでの予約数を左右する
実在部屋数を自動で販売！
プラン料金を一括変更
価格調整で売り切る！
会計システムだからトータル管理
コスト管理まで一元管理！
詳しくは 情報の使い手 検索

全旅連青年部全国大会特集

歴代部長がエールを送る

――（司会＝本社・森田淳）青年部長在任中を振り返るとともに、経験を踏まえて現役の青年部員にエールとアドバイスをいただきたい。

小田　私は青年部長3代目になる。初代は静岡県伊東温泉猪戸館の前田さん、2代は長野県山田温泉藤井荘の藤沢さん。おふたりは2期4年、部長を務められたが、私は1期2年。私から1期2年、再任がないという格好になり、今でもその方針を守っていただいている。

私の頃は青年部ができてまだ間もない頃で、鹿児島と沖縄県で青年部が未結成だった。当時の三木副部長、組織委員長の勝谷さん、副委員長の小池さん、総務委員長の望月さんとともにそちらを訪問して、話をして、ようやく結成にこぎつけた経緯がある。気持ちをひとつに、事を成し遂げたことに大変満足して、その日の夜に当時はやりの電線音頭をみんなで踊ったことを、今、懐かしく思い起こしている。

よりよい青年部を作り上げようと、売れっ子のコンサルタント、横溝先生のお力をちょうだいして、ゼミと対話の集いという会を全国10ブロックで開催させていただいた。横溝先生のセミナーと、本部役員と地域の皆さんとの対話を通して、皆の気持ちを通じ、組織強化につなげようという思いがあった。

小田氏

藤沢さんが部長の時、若手の育成を目指して「ヤングプロジェクト」という委員会を作った。ご指名をいただいて、事業を担わせていただいた。人づくりが我々の業界で最も大切だということは今も変わらないと思うが、当時としては画期的なことだった。JCの経営セミナーにも負けないぐらいのレベルを目指した。

私の時代を振り返って、人づくり、トレーニングの場としての役割を果たしていくことが、これからの青年部にとっても大事なことではないかと感じた。

「人づくり」が最も大切
政治活動を〝突っ走る〟
徹底してやり抜くこと

森　私の頃は設立から15年ほど経って、世代交代もあって、設立当時の意気込みが少し薄れていた。20人に常任理事をお願いしたが、期のはじめに集まったのが13人。スタートから挫折をしてしまった。

森氏

小田さんに相談をしたら「1年目は種をばらまき、2年目に刈り取ればいい。そんなに急ぐ必要はない」とアドバイスをいただいた。「それならゆっくりやろう」と、少し落ち着いた気分になった。

私はこの集団を、もっと行動理念が明確なものにしようと思い、政治活動に力を入れた。「グー、チョキ、パーの理論」というもので、その活動の大切さを全国30県以上を回り、唱えて回った。当時は労働時間の短縮問題や、継承税制の問題、入湯税の問題などがあった。ある代議士のもとに、2年間に何度も通い、問題の解決を訴えた。全旅連の当時の会長や専務理事に「（政治活動を）やり過ぎだ」と言われたのだが、構わず突っ走った。

私の体制の2年目の全国大会は、政治大会と銘打ち、自民党の国会議員ご本人100人、秘書関係120人、合計220人にお越しいただいた。

福田氏

私は青年部員として初めて、旅政連の理事に迎え入れられた。私の次の部長の太田君から、青年部長が全員にした業界への助成金を返上しようと、青年部の総会の中で決議をした。一部の人からお叱りも受けたが、後から評価をいただいた。

部長時代は47都道府県全部を回らせていただいた。すべてを回った初めての部長だと思う。行った先では飲みニケーション。気軽に出られる青年部であることをアピールした。うちでは1滴も飲まなかったのだがみんなから酒好きと思われて、贈り物のシーズンになると玄関が酒の瓶でいっぱいになってしまった（笑）。

全国大会は群馬県の競輪場「グリーンドーム前橋」で行った。懇親会では競輪場に1500畳の畳を敷いて、1877人の参加者に会席料理を振る舞った。はじめは「できるわけない」と言われたが、とにかく個性化をしたいと、畳と会席にはこだわった。

青年部の皆さんにお願いしたいのは、何かを思い描いたら、徹底してやり抜くこと。また、親会にできないことを見つけて、自分なりの役割を果たしてもらいたい。ある程度先走っても、親が謝ればいい話だ。そうすれば、さらに素晴らしい業界になると思う。

小田　森　福田

大木　私の地元は四国の愛媛県。会員数も少ない〝島国〟で、清水の舞台から飛び降りる気持ちで部長を務めさせてもらった。不安で仕方がない中、小田先輩をはじめ、歴代の部長の足跡を一所懸命勉強したことを覚えている。当時の全旅連の星谷専務からは、青年部長の心得を6時間説いていただいた。

まず、行ったのは、全国10ブロックからそれぞれ1人ずつ、正副団に出てもらうこと。副部長5人と常任理事2人、そして常任相談役3人の計10人が各ブロックからの代表となった。正副団の会議の中身を各ブロックにうまく伝えたかったのだが、それはうまくいったと思う。

青年部の20周年行事は、本来ならば福田さんの時に行うはずだったが、私の時に回ってきて、東京の赤坂プリンスホテルで開催した。ただ、お金があまりなくて困ったことがあった。

そこで考えたのが、1円玉募金。全国の青年部員に1円玉の募金を呼びかけたところ、1千万円強が集まった。それは現在の災害基金につながっている。

佐藤氏

私の期が終わる年の1月17日、阪神淡路大震災が起きた。震災が起きて2日目、私と常任相談役の2人で被災地の有馬温泉に行き、当時の兵庫県部長に見舞金をお渡しした。伊丹空港からタクシーで現場に向かおうとしたら、運転手さんから「お客さん、ふざけてるのか」と言われたりしたが、「死ぬ覚悟で行きましょうか」と、2時間で何とかたどり着いたことを思い出す。

私は青年部長になりたくて青年部に入ったわけではない。しかし、部長になっていなければ、愛媛県の理事長にも全旅連の副会長にも選ばれていなかっただろう。今の自分は恐らくなかったと思う。

今、私の時から20年ぶりに、四国から青年部長が出ている。今の部長には、組織というものを大事にして、手順を踏んだ行動を心がけてもらい、そして地元の皆さんにも可愛がってもらえる青年部長として、残りの任期を全うしていただきたい。

組織を大事にした行動
青年部は「先兵」であれ

佐藤　私が青年部長に就任したのが平成7年4月。その1月に阪神淡路大震災、3月に地下鉄サリン事件が起き、これから先どうなるのだろう、皆さんに集まってもらえるだろうか、と心配だったが、151人の仲間から出向をいただき、大変ありがたく思った。

私が打ち出したのは「旅館総研」。これまでは業界全体のことを考えるのが青年部のあり方だと思っていたが、バブルが崩壊して、景気が悪くなり、個々の旅館の繁栄も考えていかねばならない、そのためには勉強が必要だ、ということで立ち上げたわけだ。

大木氏

同時に、特消税の廃止運動も盛んになっており、その運動にも駆り出された。小原先輩が対策本部長として活躍されたが、当時は100万人の署名運動や、平成女将47姉討ち入り、国会議員を集めた集いなど、徹底的に行った。その成果もあり、平成8年末、12年3月31日限りでの廃止を勝ち取った。

もちろん、先輩方の実績なのだが、我々青年部にもいい経験になったし、その行動力が今の全旅連に生きているのではないか。

今の青年部に申し上げたいのは、青年部は業界の先兵であれ、ということ。そして、業界が頭打ちになっている今、旅館・ホテルの需要を喚起するような新たな提案をしたり、勉強会を開いたりするなどしていただければありがたい。

大木　佐藤

工藤　私は36歳までサラリーマンをしており、37歳から青年部に入らせていただいた。最初に出た全国大会が福田さんの時の前橋のグリーンドームだった。訳の分からないまま出て、人がよく集まってるな、とか、福田さんが花束をもらって泣いているのを見て、なんで泣いているのかな、と思ったり（笑）。

その次が大木さんの時で、東京都は部員の人数が少ないから、「あなた都部長ね」と言われて、東京都の部長をさせていただいたり。そして次の佐藤さんの時は「東京代表で行って来い」と、やはりよく分からないまま全旅連青年部の副部長をさせていただいた。同時に、小原さんの特消税撤廃委員会にも参加させていただいた。この頃から全旅連というものにもまれて、鍛えられていったのだと思う。

特消税の廃止が決まり、よかったという一方、拓銀（北海道拓殖銀行）と山一證券が破たんしたり、大変な時代になった。そんな中で佐藤さんの次の部長を決める時に、なんとなく私にお鉢が回ってきた。皆さん、大きい旅館の方ばかりだが、私はビジネスホテルで分野も規模も違い、大変なプレッシャーだったが、やるしかないと清水の舞台を飛び降りた。

特消税が廃止になり、次のテーマは何かということで、出てきたのが旅館総研の継続と、公営宿泊施設の廃止運動だった。そして反対運動だけでは寂しいので、観光立国宣言、観光庁の設立ということも運動のテーマに据えた。

お客様の満足度を向上させる

『分煙』環境づくりを考えてみませんか？

JTでは、旅館・ホテル業や飲食業を営む皆様が分煙環境を整備する際、その方法についてアドバイス等をさせていただく

『分煙コンサルティング活動』を無償で行っています。

分煙環境に関するご相談件数は、2004年の活動開始以降、毎年300～500件にのぼります。ご相談いただく内容は様々で、具体的なコンサルティングのご相談も含め、多岐にわたります。

分煙することでどんなメリットがあるの？
喫煙スペースからの煙やニオイの漏れを防止する方法はあるの？
分煙したいが、どんな設備を導入したらいいかわからない
たばこに関する法律や自治体条例等の動向を知りたい

ホテル・旅館において分煙環境の整備を行った事例

ロビーに分煙機のみを設置していましたが、吸わない方への配慮から煙が漏れないように個室化。室内にはベンチも設置しました。

会議室利用者の快適性向上のため、同フロアに喫煙室を設置。外に煙が漏れないよう、十分な排気風量と適切な給気口を設置しました。

TOPIC　飲食店舗においては、店内の喫煙環境を事前にお知らせする店頭表示も有効です。
事前に店内の喫煙環境をお知らせすることは、いますぐに行える分煙の取り組みです。
お店の入口にステッカーを貼るだけですので、費用をかけることなく手軽に取り組むことができます。

簡単につくれる「店頭表示ステッカー」

喫煙環境を告知・表示する「店頭表示ステッカー」を、下記WEBサイトで簡単につくることができます。
表示に従うだけでオリジナルのステッカーが完成します。ぜひご活用ください。
※一部地域では、店頭表示の様式が条例等により定められています。その場合には定められた様式に従って下さい。
「分煙.com」のWEBサイトはコチラ >>> http://www.bun-en.com/

<WEBサイトでのオリジナルステッカー作成例>

その他、JTではたばこに関する様々なご質問・ご相談をお受けしておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

【分煙に関するご相談・お問い合わせはこちら】日本たばこ産業株式会社 お客様相談センター　電話 03-5572-3336　WEB http://www.jti.co.jp/sstyle/manners/bunen/index.html

ひとのときを、想う。JT

全旅連青年部全国大会特集

「がんばれ全旅連青年部」

1969年、「未来の宿泊産業を支える人材を育成する」目的で結成された全旅連青年部。今年で創立43年目を迎え、歴代の青年部長経験者は現在の横山公大氏で20人を数える。半世紀近い歴史の中で、「全旅連の実働部隊」として、時の業界を揺るがす諸問題にも積極果敢に対応してきた。今回、全旅連青年部の第21回全国大会を前に、歴代の青年部長9氏にお集まりいただき、「がんばれ青年部～歴代部長がエールを送る」をテーマに語っていただいた（東京の全国旅館会館で）

座談会出席者（順不同）

第3代部長（石川県・加賀屋）	小田　禎彦氏
第6代部長（長野県・旅館さかや）	森　行成氏
第10代部長（群馬県・福一）	福田　朋英氏
第11代部長（愛媛県・ホテル葛城）	大木　正治氏
第12代部長（山形県・日本の宿古窯）	佐藤　信幸氏
第13代部長（東京都・ホテルかずさや）	工藤　哲夫氏
第16代部長（秋田県・K'sAct）	松田　賢明氏
第17代部長（東京都・芝大門ホテル）	佐久間克文氏
第18代部長（岡山県・ゆのごう美春閣）	永山　久徳氏
オブザーバー・本社東北支局長（元全旅連青年部副部長）	平塚眞喜雄

研究事業の継続に感謝　成長すること楽しもう

工藤　松田

私の時がちょうど30周年で、記念の大会を札幌で行った。講師を誰にしようかと、ここにいる平塚君と頭を悩ませて、当時、「日本国の研究」を書いた作家の猪瀬直樹氏にお願いした。公営宿泊施設撤廃の必要性を分かりやすく話していただいた。

旅館総研という佐藤さんが提唱された研究事業が、私以降も綿々と受け継がれているようだ。大変ありがたいことで、今の青年部の皆さんには感謝している。

松田　「集い、語り、動く」〝自らの意志で集い、自らの言葉で語り、自らの想いで動く〟。これが私たちの活動スローガンだった。

私たちの期は1年目に35周年、2年目に小原先輩が出馬した参議院選挙があり、組織としての一体感を考えさせられた2年間だった。

期がスタートする時、ここにいる佐久間君と永山君に副部長のお願いをするとともに、佐久間君には次期、永山君には次々期の部長を内々でお願いした。当時私が39歳だったので卒業までの6年間で青年部の改革に取り組みたいと考えたからだ。改革というとおこがましいが、私たちの時は部員数の減少が著しく、全国で2千名弱になっており、このままでは先細りになるという危機感があった。

私たちはそれを打開するために各県の青年部員に青年部活動にもっと興味を持ってもらおうと、年5回、2年で10回開催される常任理事会を全国10のブロックで開催する「持ち回り常任理事会」を実施した。

私が副部長の時、各県青年部の総会に参加させてもらうと、「本日は全旅連青年部から来賓がお見えです」とよく紹介された。それは、〝自分たちは県の青年部員。全旅連青年部というのは自分たちとは別物〟という意識であった。私は組織としての一体感のなさを危惧し、「僕らはみんな全旅連青年部員なんだよ」と訴えていたのをよく覚えている。だから私たちの期では各県の総会において、「自分のブロックで常任が開催される時はぜひ参加をし、このようにして物事が決まっていくのだというところを見てほしい。そして同じ仲間として、同じ旅館の後継者として語り合おう」と言い続けた。また宴席でも〝もし上座に座らされても座ってるのは最初の10分間で、あとはビールを注ぎに回る〟という正副部長向けのルールを作り〝お客さまではなく仲間〟〝一体感〟を徹底して意識付けしたのを覚えている。

当時の青年部員に対しては、「青年部はトレーニングの場。できないこと、分からないことをそのままにしておくことは恥ずかしいこと。参加し、語り、何かに気付き、できなかったことができるようになること、成長することを楽しんでほしい」と訴え続けた。

今の青年部員に求めたいのは、〝スピード感のある判断力〟。これを身に付けるには、アレコレ考える前にいいと思うことであればまずやってみること。そして必ず結果を出すこと。結果が出たらその結果のいい悪いにこだわらず、なぜこの結果になったのか、という原因を考えること。これによって次の一手が見えてくるはず。これを繰り返し繰り返しやることでスピード感が生まれてくる。

青年らしく失敗を恐れず、前向きにチャレンジし続けてほしい。

佐久間　私も工藤さんと同じ東京のビジネスホテル。全国の旅館の方とどうコンタクトを取ればいいか、最初は本当に不安だった。救われたのは、第5代部長の小池さんと付き合いが深かったので、この話があった時に相談できたことだ。

当時の青年部員は全国に1800人ぐらい。かつては3千人ぐらいいたが、ここまで減ってきた。出向者は120人弱。

組織を強化するには、部員一人ひとりが自分の宿を見直して、強くなっていくしかないと、松田さんも言われていたので、それを踏襲しようと思った。

スローガンで打ち出したのは「聴感伝磨（ちょうかんでんま）」。各県から出向したくても、宿の現場で忙しかったりで、なかなか出られない仲間がいる。出向者には、そういう人たちの思いを踏まえて出向してもらい、勉強したことを地元に戻り、フィードバックしてほしいと伝えた。

親会の小原会長にも強力なバックアップをいただいた。

「パブリアップ委員会」とか「宿の定義委員会」とか、今までにない委員会を立ち上げさせてもらい、とにかく新しいことに取り組んで、出向しやすい環境を作りたかった。

心残りだったのは、体調を崩して期の中で二度ほど倒れてしまったこと。永山君に部長を引き継ぐ時の総会に参加できなかったのは、青年部の歴史に残る出来事だったと思う（笑）。

今の横山君と次の山口君と、2期にわたって部長を選挙で決めたことは、賛否両論あると思うが、やりたいと手を挙げることは非常に素晴らしいことだと思う。

工藤氏

佐久間氏

松田氏

出向しやすい環境作る「与え合うこと」が必要

佐久間　永山

永山　私の時はちょうど40周年。親会では佐藤会長が就任された時だ。

スローガンを「YES WE CAN」にしたのだが、そのあとオバマさんが使ってしまい、私の方がオリジナルなのだが恥ずかしくて使えなくなってしまった（笑）。

景気がずっと落ち込んでいて、世知辛い時代。青年部員と話をしても、「（全旅連青年部に）出向して何のメリットがあるのか」「何を与えてくれるの」と、そういう人が増えていた気がする。青年部ができて40年。企業や組織の30年説というのがあるが、ここは棚卸しをする時期だと思った。

部長になるまでの4年間は、まず、知識量がなければいけないと、親会の委員会や事業に片っ端から首を突っ込ませていただいた。それから各県の現状を知りたいと、各県の事務局とコンタクトをとった。部長としてスタートする時、47都道府県の事務局員さんをほとんど知っている状態で、すごくやりやすかった。

当時の青年部員には、仲間なのだから「何かくれ」ではなく、お互い与え合うことが必要だと訴えて回った。ただ教えてくれと言っても、教える人はいない。「私はこういう失敗をしましたが、あなたはこういう時どうしましたか」と、情報は自分からさらけ出さないと、もらえないものだと思う。

まずはそういう場所を作ろうと、「yadomo！」という、今のフェイスブックの走りのようなサイトを作らせていただいた。今でも900人ぐらいが参加している。まずはネットで知り合い、もっと深いことを知りたければ、会って朝まで飲めばいいし、困ったらいつでも私のところに来て下さいと。そういうスタンスで、今でも毎日のように私のところに相談事が来ている。ネットのやり取りだけではもったいないと思ったのが、次の期からは出向者が急増している。

このほか、親会と青年部でそれぞれあった協定商社会を一体化したり、テーマを決めた陳情活動の復活にも取り組ませてもらった。

次期部長が選挙で決まったわけだが、選挙のいい、悪いは別にして、リーダーを目指す人間が絶えず生まれるような組織であってほしいし、「あの人のようになりたい」と思われるようなリーダーに山口君にはなってほしい。

50周年も間もなくやってくる。その時々の新しい枠組みで、青年部という組織がずっと続くことを願っている。

平塚　森さんの時に初めて全旅連青年部に出向した。田舎の人間だから、「いい格好しいの集まりだ」と思っていたが、森さんの「グー、チョキ、パー理論」を聞いて、まんまと青年部活動にはまった。特消税、公営宿泊施設、観光立国と、どの時代も青年部活動は休むことがなかった。青年部が種をまいたからこそ、後世に収穫期を迎えられたのだと思う。

部長経験者の皆さんには、これで終わりというのではなく、これからも青年部の尻を押していただきたいし、山口君たち、これからの部長も強いリーダーシップをもって組織を引っ張っていってほしい。

小田　こうやって一堂に会すことができて大変うれしく思う。それぞれ皆さん、2年間という年月を、青春をかけて努力した足跡が、きょう鮮やかに蘇ったのではないか。

旅館、観光業界は大変厳しいが、この難局を、若かりし頃の思い出を胸に、それぞれ乗り切っていきたいと思う。

永山氏

平塚支局長

JASRAC
Connect!
人と音楽をつなぐこと、それがJASRACの役割です。
たとえばCDをつくる、コンサートを開く、お店で音楽を流す…、そんなとき「音楽を使う人」からお支払いいただくのが"著作権使用料"です。この使用料が、作詞家、作曲家など「音楽をつくる人」に還元されることで、新しい歌やメロディーが生まれる環境が整えられます。いつまでもみなさんに素敵な音楽が届くよう、JASRACはこれからも人と音楽をつないでいきます。
詳しくはこちら www.jasrac.or.jp
東日本大震災復興支援「こころ音プロジェクト」
JASRACは会員・信託者（作詞家・作曲家・音楽出版者）が指定した作品の著作物使用料を「こころ音基金」として東日本大震災の復興支援に役立てる取組みをしています。
詳細はホームページをご覧ください。
http://www.jasrac.or.jp/kokorone/
一般社団法人 日本音楽著作権協会
〒151-8540　東京都渋谷区上原3-6-12
Tel.03-3481-2121（大代表）　Fax.03-3481-2150

この秋、新たなフロアーに生まれ変わります
9月15日 OPEN
益子館最上階フロアー「ツイン10ROOM」が一段ときれいに改装されました。新たなフロアー「風のフロアー」は、デザイナーによる設計が施され、皆様に快適な睡眠をお届けする為に全客室に、アメリカNo.1ブランドのシーリーのマットレスを採用させて頂きました。その他細やかな心配りの届くサービスを提供させて頂きます。これを機に、スタッフ一同更なる質の向上をめざし努力して参ります。これからも益子館をどうぞよろしくお願い申し上げます。
女将」高橋美江
益子館 MASHIKOKAN
〒321-4217
栃木県芳賀郡益子町大字益子243-3
ホテルサンシャイン益子館
TEL（0285）72-7777（代）
http://mashikokan.jp/
SHINE'Sライブ　毎週土曜日20:15～開催中
益子館社員で結成された湯けむり系温泉バンド

Sony Life
一生涯のパートナーとして。
信頼にふさわしい、品質を誇りたい。
ともに生きるということ
LIFEPLANNER VALUE.
ライフプランナーバリュー
ソニー生命保険株式会社
本社:〒107-8585 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル東館
～全旅連青年部全国大会in沖縄開催おめでとうございます～
生命保険に新しい風
PROFILE
ソニー生命
"ひとのやらないことに挑戦し社会に貢献する"このソニー・スピリットと当時米国No.1の保険会社プルデンシャルのノウハウをもって、1979年にソニー生命は誕生しました。
コンサルティングによるオーダーメイドの生命保険。このかつてないスタイルで、日本の生命保険業界に新風を吹き込んだのです。
多様化した価値観から生まれる複雑かつ高度なニーズに応えられる合理的な生命保険をご提案し、ご契約後もコンサルタントとして提供する高質なサービスが多くのお客様からご支持をいただき、厳しい経済情勢にもかかわらず創業以来の成長を続けています。
この信頼とご期待にお応えするべく、ソニー生命はこれからも革新の心と顧客第一主義の理念をもって前進していきます。
東京中央ライフプランナーセンター第3支社
トップ・オブ・ザ・エグゼクティブ　ライフプランナー
中野　秀嗣
ソニー生命保険株式会社
〒100-0004　東京都千代田区大手町1-7-2
東京サンケイビル31F
Tel　03-4334-5203　Fax　03-4334-5213
直通　03-4334-5346　携帯電話　090-3317-7338
E-mail:HIDETSUGU_NAKANO@sonylife.co.jp
中野秀嗣（左から3人目）を囲むスタッフ一同（右・写真）
SL12-1230-0056